

第 4 回亀岡市学校給食検討懇話会 議事要旨録

日 時： 令和 5 年11 月16 日(木)

場 所： 市役所 6 階 602・603 会議室

出席者： 久下沼座長・上田副座長・國府委員・松村委員・井尻委員・入木委員
四方委員・草木委員・辻村委員

欠席者： 須知委員・安田委員

事務局： 末永教育委員 森岡教育部長
 教育総務課 阿比留課長
 学校教育課 今西課長・石田主幹
 学校給食センター 岩崎所長

傍聴者： 8 名

議 題： 提言書(案)について

【記録】

1 開会

2 資料の説明

提言書(案)について

3 説明及び意見交換等

事務局)本日の第 4 回懇話会の開催に先立ち、本日欠席の委員の方から提案書(案)の修正案を事前にいただきましたので、はじめにそれらをご説明させていただきます。

1 点目は、10 ページ中ほど「学校教育に多様な機会と」の記述を、「学校教育に学びの多様な機会と」とし“学び”を入れる修正案です。2 点目は、同じく 10 ページ、2.令和 5 年アンケート調査結果の解釈の 5 行目、実施を支持する主な理由として「負担の軽減」との表記を「親の負担の軽減」に修正する案です。さらに、3 点目として、11 ページ 3 行目右「生徒の 47%」を「生徒の 42%」に修正する案です。以上 3 点、委員から修正の提案をいただきました。

座長)それでは提言書の案について、加筆、削除、修正等のご意見をいただきたいと思います。目次にある“1.はじめに”から“6.提言”の順番で意見を頂き、まとめていくかたちで進めさせていただきます。

はじめに、私から加筆の提案をさせていただきます。“5.中学校給食実施方式別の検討”でそれぞれのメリット・デメリットをまとめていますが、その前の枕として“5.中学校給食実施方式別の検討”の下に実施方式の比較検討のポイントのようなものを箇条書きで

いくつかリストアップして、建設・運営のコストをはじめ様々な項目が、学校給食の方式の選定に際しては比較・検討のポイントになり得ますといったサマリーを入れ、その下から個々の方式への懇話会の意見を並べるという構成が良いように思います。まず、その1点についてご意見をお聞かせください。

それ以外では、先ほど事務局が説明された欠席の委員からの修正案は、全て受け入れということでよろしいでしょうか。適切な提案だと思います。

委員)「親の負担軽減」は「保護者の負担軽減」の方がいいと思います。

座長)アンケートではどういう表現になっているか確認し、それに揃えるようにします。

座長)“3.学校給食に対する考え方”ですが、アンケート結果をグラフ表示等で視覚的に解答比率が把握できるように提示された方がいいと思います。

委員)円グラフだと、分母である「回答数」の違いが表せないと思い、あえてグラフで表示しないようにしました。

委員)生徒、保護者、教職員の回答数の違いや、設問内容等により母数が違うので、回答数の違いは実数で示した方がいいと思います。グラフで回答比率を%表示するだけだと、回答数の母数の少ない多いがわかりにくいかと。母数の違いが分かるような表現にしていた方がいいと思います。

委員)“(2)アンケート結果から学校給食を進める上で大切にしたいこと”というのは重要な項目だと思うのですが、「教職員の負担の軽減」というのが何に対しての軽減なのか、学校給食の開始を検討している中で、「軽減」という言葉を使ってしまうと、それができないと学校給食が実施できないという意味にも取られる可能性があります。この「軽減」が「大切なこと」に挙げる項目の表現として必要なのかという点で気になります。

親の負担も、当然ながら、負担軽減の対象として目標の中にあると思います。だから、色々な方の負担を基本的には増やさないかたちで給食の在り方を考えていきましょうという前提に立って、全体の負担軽減を図っていく、増やさない、小さくするなどの表現が適切だと思います。

あと、もう1点。“6.提言”ですが、全体を読むと、一番望ましいのは自校方式という提言案になっているようにも解釈できます。例えば、11 ページの“3.3 つの方式の比較と意見”の中で、自校方式は「最も柔軟性と機動性に富む実施方式として積極的に評価されるべきと考えます」という表記がありますが、「最も」という表現を使うと、学校給食で一番必要なのは柔軟性と機動性ということになれば、自校方式が最も優先される方式なのかなというふうに私は理解しました。

つまり、その他の比較・検討の条件もある中で、有力な選択肢の一つになり得るという表現ではなく、「最も」という表現を使うことは自校方式がナンバーワンで、その次はセンタ

一方式で、デリバリー方式が 3 番という順位付けの表現と理解されてしまうかもしれないことを危惧します。

最後に、コストが比較・検討の基準として全く出てこないのも、コスト面も今後の方式の検討に対して重要な要素であることを明記すべきであると考えます。現状でコストとして明確な金額を算定することは難しいとしても、コスト面は考慮する必要があると思います。

座長)今、“6.提言”の表記の中で、10 ページ目の“2”のところの最後から 2 番目のパラグラフで、学校の先生方の負担増について言及していますが、それに対して、保護者など他の関係者の負担も発生するので、教職員の負担増だけ明記することはいかがかという意見ですが、どうでしょうか。

委員)各々の負担軽減を図りたいというのも当然入っていると思います。生徒や保護者も含めて関係者全体の負担の軽減を考慮すべきであると考えます。

座長)各ステークホルダーの負担軽減、あるいは負担増を回避するための対応等が必要ということで、ここでは教職員だけではなく生徒や保護者も含めて関係者全体の負担軽減を図るというご提案ですか。

委員)そうですね。「教職員の負担の軽減」という表現が、アンケート結果からまとめ直されたものであるとは読み取れませんでした。

どの時点を基準にして「軽減」するのかという点で、中学校給食は現時点では実施していないわけですから、実施していない現状を基準にしてそこから「軽減」というのはおかしい話で、学校給食の実施による負担増を回避するなどの表現にしないと、誤解を生むのではないかと思います。

座長)中学校給食を実施すれば先生方の負担が増えることになるけれども、それを出来るだけ抑える、考慮する、そういう表現の方がいいということですね。

座長)“6.提言”の最後のところ“3.3 つの方式の比較と意見”で、その比較のポイントとして、冒頭で“5.中学校給食実施方式別の検討”の前の枕で、比較検討のポイントをコスト面も含めて 10 項目ぐらい列挙するので、コスト面では一般にセンター方式が他の方式よりもアドバンテージがあるといったことは明記したほうが良いかと思えます。

また、柔軟性や機動性という点は、あくまで複数ある比較検討の基準の一つにすぎないので、自校方式が 1 位で、懇話会として強く押すという合意も意図もないため、表現についてはいまいし検討が必要かと思えます。

委員)「最も」という言葉がナンバーワンと理解されてしまうという懸念であります。

座長)これは「柔軟性や機動性という点で」という前文がついていますので、あくまでもその点での比較ではということです。

委員)そうですね。評価ポイントを明確にする必要があり、柔軟性と機動性が何かというところがよくわからなかったので指摘させていただきました。

座長)その上にある、“学校独自の献立の実施、給食時間の設定、あるいは給食に関連付けた行事・プログラムの実施”これらを実施するためには、学校給食の実施方式には柔軟性や機動性が必要だという表現です。

委員)関連しまして、7 ページ、自校方式の主なメリットの 2 番目に「学校独自の献立の実施」がし易いとあります。また、センター方式の主なデメリットに「学校独自の献立、あるいは給食に関連した独自の取り組みの実施が難しくなる」とあります。また、デリバリー方式では「教育手段として利用することが難しくなる」と表現されています。「学校独自の取り組み」が難しくなるということと、「市独自の取り組み」が難しくなることは、区別される必要があると思います。おそらく「市独自の取り組み」というのは、センター方式でも対応できるのかなと思いますが、それはできますか。

座長)そうですね。

委員)そうすると、ここは比較で書いたほうが良いなと思いました。

自校方式だと市独自も学校独自もできる。センター方式だと、市独自はできるけど学校独自は難しい。デリバリー方式だと両方難しいということを明記すると、先ほど指摘のあった「最も柔軟性と機動性に富む実施方式」というのは、うまく説明できるかと思います。

いかがでしょうか。

座長)そういう形で柔軟性と機動性に関する比較の説明を裏付けるということですね。

委員)同時に、“6.提言 3.”のところで、「亀岡市として長期的な視点に立ってどのような理念・目標を掲げ、学校給食の実施を通じて何を実現するのかという視点から」というこの文章を書く場合、今の文案のままだと、自校方式しか当てはまらないことになるので、センター方式でもできるという表現に変えた方が良いかと思います。

座長)亀岡市として、地域ごと学校ごとの独自性を大切にするならば、自校方式も選択肢に上がり、亀岡市全体として共通の取り組みを想定するならばセンター方式も選択肢になるということですね。亀岡市は、市政として学校独自あるいは市独自の取り組みのいずれも推奨するという選択もあります。

委員)自校方式、センター方式、デリバリー方式のメリット・デメリットを比較した時、柔軟性という点で独自の取り組みが難しいということが、この提言書案の様々な個所に出てきますし、給食を通して何か他の教育を実施していくことも目標となる、という表現も同じく多く出ています。

給食を通して何かを実現しようと思った場合、給食自体に柔軟性がないと実現できません。例えば、環境教育や食農教育などについては、デリバリー方式では、それらの取り組みが難しいことが書いてあります。しかし、センター方式のところを見ると、「学校独自の献立、あるいは給食に関連した独自の取り組みの実施が難しくなる」とあります。ということは、センター方式では取り組みができない、という誤解を生むことになると思います。

そこで提案ですが、各方式のメリット・デメリットのところに、この柔軟性の比較が全ての方で入っているとわかりやすい、それをわかりやすく表現した方が、提言を読んだときに、大体この方向がいいのかなっていう推測ができるかと思います。

今のままだと、この懇話会は、自校方式を推奨しているように見えてしまうことになるのではないかと考えています。

座長)なかなか記述的には難しいですが、比較項目挙げて、3段階で○、△、×にして、それぞれの3つの方式について、一覧表にして並べてしまうというのも対応の一つです。

あるいは、今の記述は○で並べているのですが、例えばその方式について、1番目にコスト面での比較検討を、2番目に柔軟性と機動性を、3番目には教育面を、という項目分けの形式を共通化して、すべてのメリット・デメリットを一覧表化するということも対応の一つです。

委員)「学校の独自性」というのが、よくわからないのです。

先生は転勤されたら学校の大小が違ふし、差がありますよね、そういう事情の違いから給食の内容に、柔軟性、独自性を出すということのメリットを実現するのは自校方式だと思います。ただ、本当に成立するのかなという懸念があります。中学校は7校あり、7通り独自性があった場合、生徒たちも、ある中学はいいものを食べている、一方でこちらの中学ではそうでない、などの問題が出てきてはいけないと思います。

座長)自校方式はコスト面から見て費用が大きくなるのは確かです。生徒の数が減っていった学校の合併など運営の適正化の措置が採られる可能性がある一方、そのメリットを生かすには、多くの学校をいくつかのブロックに分割して、それぞれに小さなセンターを建設する親子方法もあります。

ただし、これはこれでまたコスト推計が難しいのですが、自校方式の推計の前提は1つの学校に1つの給食室を設けるといふものですので、方法としてはブロック毎の親子方式なども折衷案としてよいのではないかと考えています。

実際に学校どうしの合併など適正化が可能としてある場合に、吸収される可能性がある中学校に新たな設備投資するというのは現実的ではないと思います。

委員)「学校の独自性」が実行可能かどうかで言うと私達教職員は対応出来ます。

そもそも以前は自校方式でしたので、学校が変わればその学校のやり方がありますが、基本的には教職員や児童が変わっても、給食のやり方が変わるわけではないので、指導に関しては、どこへ行ってもほぼ同じことをやっています。

現在は3人の方が栄養教諭をしてくださっているのですが、以前もブロックごとに配置されるような形で栄養教諭さんが居てくださって、その方々が相談をして献立を立ててくださっていたので、基本的には市内の皆さんが同じ献立を食べていました。

そうした中で、独自性という点では、学校によって異なる行事が実施される場合もある

ので、0-157 の問題がある以前は、教職員の自由度が現在よりもあって、学校でお弁当を作って給食をしたり、お話し給食みたいなことをしたり、いろんなことをやっていました。

だんだん世の中が変わってきて厳しくなってきたところもあるのですが、自分の学校の行事に合わせて行うということは、融通が利きやすいと思います。

委員)他の点ですが、この提言書の中でセンター方式は、大規模センターを市内1ヶ所に設置するというイメージがすごく強いかなと思います。災害が起こる場合も想定されますので、1ヶ所ではなく、何ヶ所かセンターがあった方が良いのではないかなという意見も出ていたと思います。ここでのセンター方式は、1ヶ所のセンターを前提にメリット・デメリットが書かれているのかなと思いました。表などで表記するのも対応のひとつかなと思います。

座長)比較表を作るのは大変なので、“6.提言”の中で、自校方式の良い点、センター方式の良い点、それらの折衷案としてブロックごとの親子方式で中規模センターを複数配置することも選択肢として考えられるということを入れる。それと3つの方式の並べ方だと、自校方式が懇話会として最も支持しているというような誤解を招きかねないご指摘が出ていますので、最初の段階で、懇話会としては、いずれの方式についても最も優位、或いは最も劣位にあるということを明確にしていないという一文を入れる形でどうでしょうか。その上で、以下のような点で、それぞれの方式のメリット・デメリットについて意見が出されているので、それらを各論的ではあるけども、提言として明記するのはいかがでしょうか。

座長)その他、ご意見よろしいでしょうか。

それでは、今回の意見等を提言書に反映させて、次回に最終確認をして提言書として集約を終えるというプロセスでよろしいでしょうか。

以上で、議事を終了します。

4 閉会